

6月9日(土) SGH 3校合同 模擬国連「国連カフェ」

- 日時 平成30年6月9日(土) 13:30～17:00
- 演題 模擬国連 ～「国連カフェ・メニュー」を作る!～
- 会議監督 中川 慶氏(模擬国連日吉研究会 OB)

【参加生徒人数】49名(昭和高等学校 34名、晃華学園高等学校 7名、駒場東邦高等学校 8名)

6月9日、第1回オムニバス授業として「模擬国連」(国連カフェ)を本校にて主催しました。今年度は晃華学園高等学校7名、駒場東邦高等学校8名を含めて49名が参加。2人または3人が担当国の大使となっており、今回のテーマである「国連カフェ」のメニューについて議論しました。英語で大使演説にも挑戦し、担当国の食材や料理を扱ってもらえるよう作戦を練り、交渉や議論を進め、カフェコンセプトの「多文化」「リフレッシュ」に合ったメニューを考えました。



【会議監督の中川氏】



大使演説



全体交渉



自由交渉

【模擬国連の進め方】

各国、英語スピーチの後、(1)全体交渉 と (2)自由交渉 を行う。

(1)全体交渉…大使は自席に着席し、議長の司会のもと挙手して意見を述べ、議論を行う。会議全体に係わることを議論する。

(2)自由交渉…大使は議場内を自由に動き回り、2国間交渉やグループ交渉を行う。

交渉と議論を経て、国連カフェのメニューを決議案としてまとめ、参加国のうちの過半数の賛成が得られれば採択となる。

【交渉・ディスカッションのポイント】

■決議案採択までの道筋

- ・ どのような話し合いをして採択に持ち込むか、何を話し合うべきか等、会議の進め方についても話し合って決める。
- ・ 全体交渉で話すべきこと、自由交渉で話すべきことを棲み分けする。

■メニューの調整

- ・ 類似メニューについての検討。
- ・ アルコールとソフトドリンクのバランス。
- ・ 宗教的な配慮をどこまで行うか。

■決議案の採択

- ・ 多くのメニューが提案されたが、話し合いと交渉により、フード/ドリンク各 10品に絞り採択していくこととなった。

【講評(会議監督)】

- ・ 事前課題に取り組んだ結果、英語スピーチや交渉がスムーズに進んでいた。
- ・ 国益達成のために、活発な意見交換、協調、折衷を展開して、決議案を採択することができ有意義な会議となった。
- ・ 運営側は、公平性を保ちながら運営側の意見を提示し、議場をまとめ、円滑な進行に務めていた。
- ・ 他高校との合同開催にしたことにより、ほどよい緊張感と刺激を受け、議論がより白熱し煮詰めることができた。
- ・ 反省点としては、会議の全体像を検討する視点が足りなかった。最初から“どのようなメニューであれば多くの大使が賛同できるか”について深く考えていたら、会議結果がまた違ったと思われる。

【生徒の感想】

- ・ 自国だけでなく、他国のことも考えて共に行動していくことが、世界貢献の第一歩となると思った。
- ・ 担当国の作業に精いっぱいだが、他国はどんな政策を立てるか、近隣国の動向など、広い視野で事前リサーチの必要性があった。
- ・ 調べる、戦略、交渉、まとめる等のスキルを使うことができた。今後自らの将来に役立て糧にしたい。
- ・ 宗教などの関係により食べられないものがある国に対し、考慮されていないメニューが多いように感じた。
- ・ フェアトレードの食材を深く知らないなので、どんな取り組みで、何をしたら良いのか詳しく知りたい。
- ・ 自分で行動しなければ何も始まらないと改めて感じた。これまでの生活を振り返りながら、積極的に行動することを忘れないようにしたい。



会議終了後、大使全員集合